





minnesang vol.4

お代官様、ご準備を。



続きません。

悪代官 番外編
電腦空間は赤く燃えて
の巻



「悪代官」シリーズのムービー

撮影は九月末に

行われておりました。

理由はいくつもあります。

メイクがしにくい、

俳優らの体調が崩れやすい、

控え時に必要な暖房設備の

確保が難しい、年末にかけての

スケジュールリングが困難……

尤も、残暑厳しい季節ゆえ、

これも多くの問題もありました。

最も困難だったことは、

小道具における食事関係でした。



初代「悪代官」で、最初に写し出される

悪代官の食事……惨めな内容だと

お気づきでしょうか。

実はあり、当日、コンビニで買った

弁当を移し替えたものです。

初めての撮影で、食事関係の小道具について

スタッフ一同全く念頭になく、

慌てて調達したのですが、いやはや

酷いもので……そもそも、三之膳まで用意

するのが当たり前のなのに、どこの長屋

風景なのかと、皆で頭を抱えました。

しかも、初日で早速腐りはじめ、

アツブに撮った後、直ぐに捨てました。

いくつかの反省をもとに、第二作「悪代官」妄想伝」
では、ある程度スーパーなどで見栄えのする食材を
購入しておいたが、シナリオの中で、忍者(柴山蛾王さん)が、
焼き魚をモシヤモシヤ食べるシーンがあるということ
に、ある厨房で焼くことに……。でも、映像を観れば
お分かりのように、あの魚は結構大きかった……
スタジオの中のガスレンジは小型で、
まんべんなく焼くことができませんでした

……生焼けで、半分腐りつつある魚って……

……俳優が食中毒になったら、事務所にとどのくらい

賠償すればよいんだらうか……

……そんな心配をよそに、柴崎さんがモシヤモシヤモシヤ

……あのシーンの撮影、プロデューサーとして実は

一番怖かったです。



実はあれら全て、蠟細工のサンプル品です。

「見せる」前提で作られているから、

カメラ写りに優れ、腐らず、最初から飾られるように

なっているから、並べるのに苦労はありません。

しかし、新品の食品サンプルは高額です。

たとえば刺身の盛り合わせだと、四〜五万円します。

じゃあ、どこで買ったのかと言え……

インターネットのオークションで全部揃えました。

出所不明の食品サンプルを検索すれば、色々出てきます。

よほどのことがない限り、千円くらいで落とせました。

ただ一方で、時代考証の観点も必要でした。

たとえば江戸時代、鮪は広く好まれてた食材でしたが、

トロはゴミとして捨てられてました。そのため、トロづくしの

サンプル食品がありました。落とせませんでした。

あれ？「悪代官」に、時代考証なんかあったっけ？

ああ……プリンアラモードのサンプル、落とせばよかったw

途中で企画内容のおかしな
ゲームとかありましたが、
「悪代官三」では逆に、
食事関係の小道具の
見栄えが良くなった
とお気づきでしょうか？



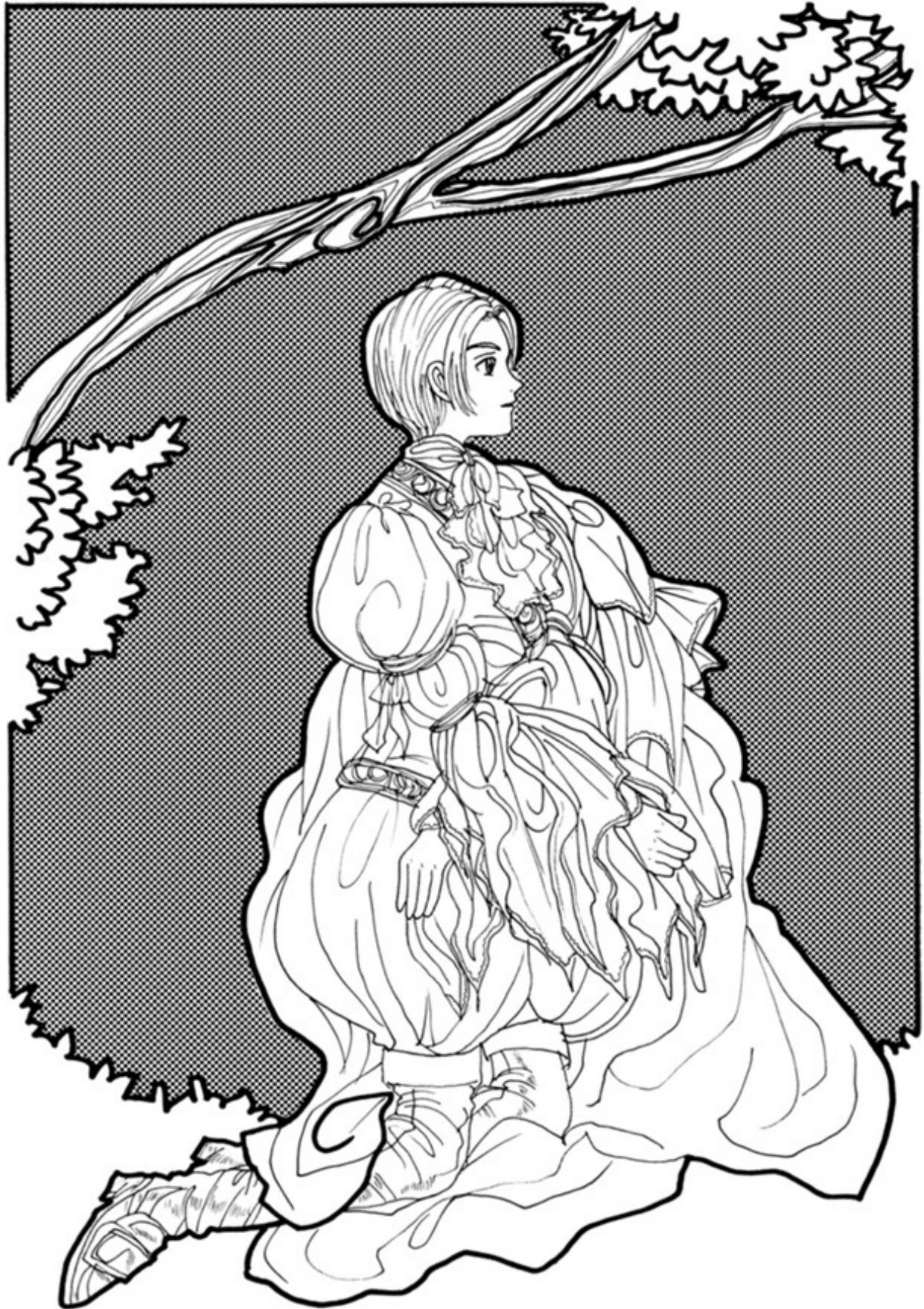




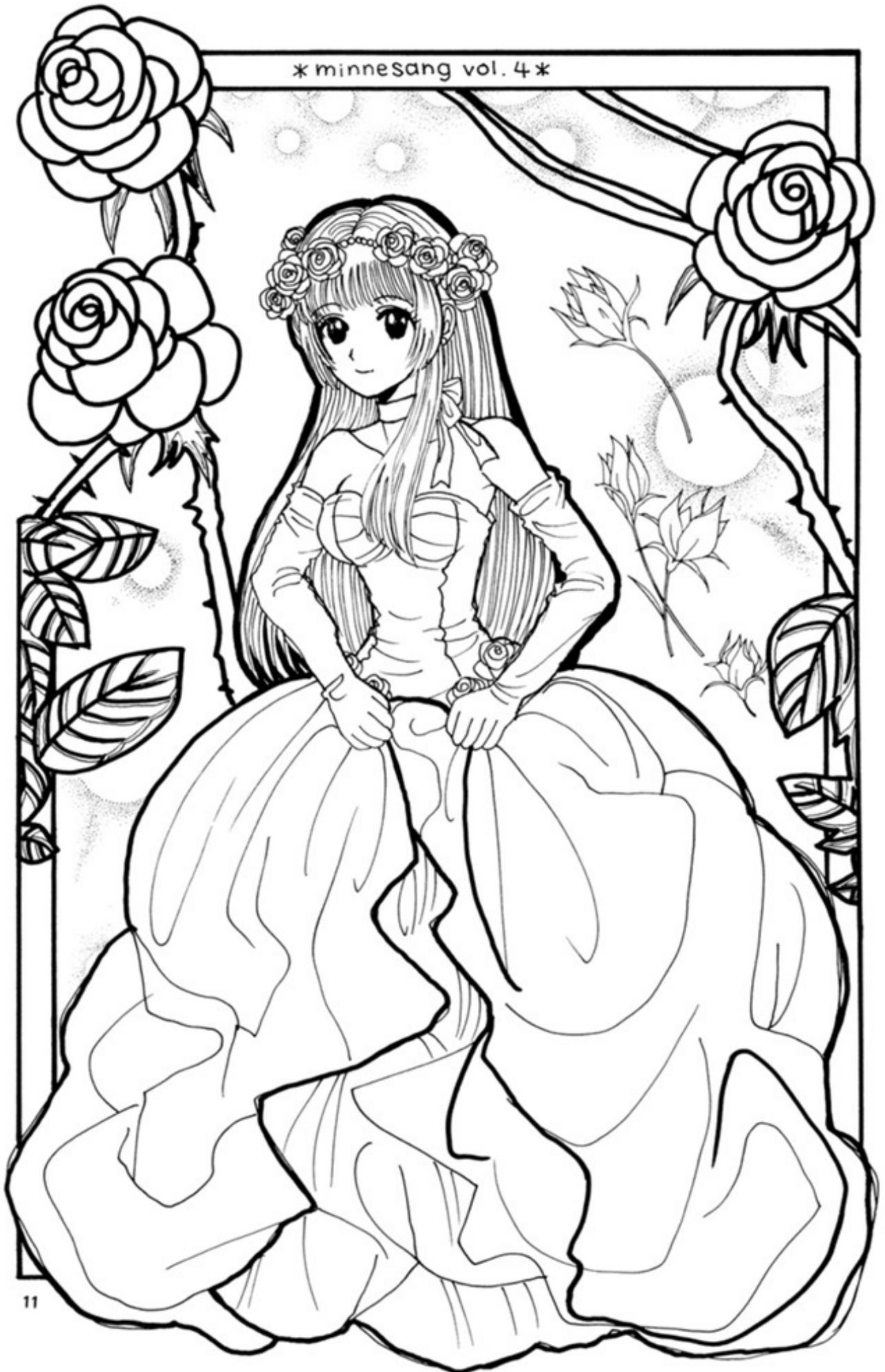
Minnesang vol.4





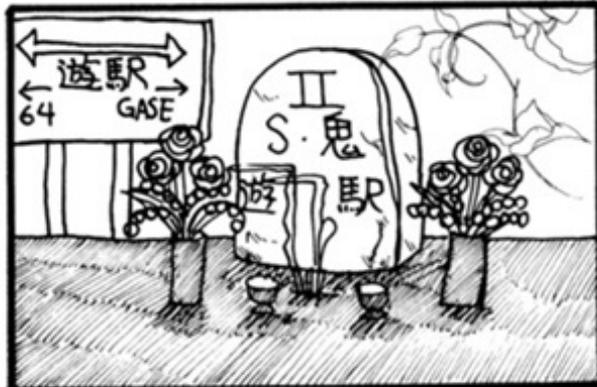
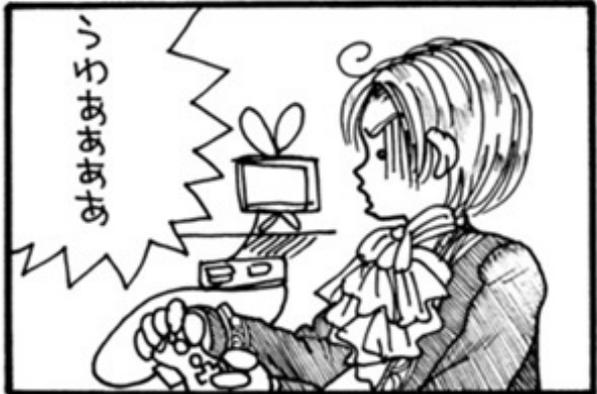


* minnesang vol. 4 *



初代は現役ですが2は11年以上生きられませんでた……いや12年か

悲報









せはは FEを通じて
ご縁を頂いて、約20年
であれ!! 縁の流れを
感じると共に、その上達した
に ムムム...と。

実際にお会いしたことが無いとは言え、
こうして何かの折にお手紙を頂いて
お返し、本当に有難いと ぞ...。
これからも長く長く
お付き合いを願います。♡

玉雨みえ

デジタルの
ロゼッタさん。





ウエスの冒険、オジサキルマニタジ、201306 WATACHAN



ファンタジークエスト♡
201308. わたしちゃん

ウエスの冒険 &
ファンタジックエスト



20/3/10. WATACHAN

ポプリハウスの1F・厨房^{ちゅうぼう}・・・

「ウナさん、僕に何か用でもあるんですか？」

エプロン姿で、カインが、料理を作っている。

俺は、ウナⅡラングリット。22才。だて眼鏡をかけている。ペットに小ウサギのミルクと白ハトのシナモンを飼ってる。

職業は、^{エレメンタルマスター}手品師+精霊使い+探偵で、この話の主人公だ。

で、俺の所へ、アルバイトに来た青年は、カインⅡ

アルフレット。職業は、ファイター。19才。

「カイン、頼みがある。腕を組んでくれ・・・」

「え？いいですよ？しようがないですね・・・」

カインは、俺の腕にからませる。

「・・・・・・・・・・・・・・・・これでいいですか？ウナさん？」

「ぶ・・・・・・・・あはははははははは！！誰が、俺の腕と、

からませろ。と言った？」

「・・・・・・・・・・・・・・・・？」

「・・・・・・・・だから、こうするんだよ。」

俺は、胸の前で自分の腕をクロスし、考えるポーズで腕を組む姿勢をカインに見せた。

「な！なんですか！！その余裕たつぷりなポーズは！？」

「カインも俺みたく、誰かにして試してみたらどうだ？」

今日は幸い4月1日だからな♪」

「解りました・・・ウナさん、その代り、この事は内緒ですからね・・・」

「ウナくまた、つまみ食いにきたの？」

と厨房にひよっこり様子を見に来た女性は、ライムⅡ

シルエット。このカフェを経営とパーティの財務管理担当。

職業は、武道家+ウェイトレス。21才。俺の幼なじみ。

左右にお団子の茶色の髪にチャイナドレスを着用。

「ち、違うんですよ。ライムさん・・・実は・・・ですね・・・

その・・・腕、組んでくれませんか？」

「あら？じゃあ本気で組むから、手加減なしよ☆」

カインは、ライムに一瞬にして体が、入れ替わり一本背負いで、投げ飛ばされた。

「いてててて・・・・・・・・」

「カイン、平気？」

「いえ、なんともないですよ。僕は、ファイターですから・・・」

「腕すりむいてるじゃない、絆創膏^{ばんそうこう}、部屋にあるかしら？」

「ちよつと探してくるわね。」

「・・・・・・・・ライムは、厨房から姿を消していた。」

「・・・ウナさん、予想と違うじゃないですか！やっぱり

こんなのよくありませんよ。料理の邪魔ですから、リビング

にでもいて下さい。」

「カインも俺みたく、誰かにして試してみたらどうだ？」

俺は、厨房から、カインに追い出されて、リビングにいた。

「カインには無理だったか・・・。」

リビングで、何やら、お菓子箱とティカップが、置いてあった。

次は、セレーネとルデリア・・・か!!よし!!

この丸眼鏡に貴族の恰好をしたのは、ルデリアIIスカット職業は、発明家+学者。23才。俺とは、学院生時代からの友人。趣味は、好みの女性をナンパする事。

そして、スタイル抜群で、ピンクの髪の毛のソバージュヘアのセレーネIIクレイット(?才)職業は、踊り子と女神見習い。

巨大植物の中にいた所を助け、パーティに加わる。

「ルデリア、セレーネ、腕を組んでくれないか?」

「え?いいけど、ウナ、レコード準備して」

「ダンスするんでしょ?ルデリア、エスコートよろしく♥」

「ああ、了解、私でよかつたら・・・。」

セレーネとルデリアが、ダンスを始めた。

俺の予想とは、こっちも、違う・・・。

残るは、ミントだけ・・・。

タイミングよく、ミントが、2Fから、リビングへと降りてきた。

ミントIIルファエット(18才)俺の依頼人で、リボン使い

+ (お姫様は秘密) 記憶喪失なので、このパーティにいる。髪の毛を左右に三つ編みしている。

「ミント、腕を組んでくれないか?」

「うん・・・いいわよ。」

俺の腕に、ミントの腕が、からまる。

「・・・」

「・・・」

俺とミントの間に沈黙が・・・。

今さら、ミントに向かって、冗談で☆す☆とは、言えない。

「みゅ☆」

「ミルクもお腹すいたわよね♥ウナ、どうしたの?顔を赤くして・・・。」

「何でもない・・・。」

「そう?熱でもあるの?」

「違う・・・。」

「なら、良いけど・・・?」

「もう、夕食だから席につこう。」

「そうね・・・♪」

ミントの腕が、スッと離れる。

「・・・」

ダンスが終わり、セレーネ、ルデリア、ライム、カインが、席に

ついていて、ミントと俺も席につき、夕食を食べ始める。

こうして、俺の腕を組む作戦は、終わったのであった・・・。

こんにちは きはぬせりなです。さて今号はジューンブライド号っぽく、
マイスタームジーク……もといマエストロムジークIIからの曲目 フィガロ!
ってカンジで描いてみました。この曲を聴くと毎回ミセスダウトの
オープニングを思い出します。フーガロフィガロフィガロ!! 以下略♪
みたいな♪ で、今号は minnesang vol.4になるわけですが、
号外みたいな感じで、ペーパー感覚で描いております。
軽くゆる〜いカンジでございます。

で次回配本のスケジュールは一応予定としては今号の6月号の後は
8月号、11月号、クリスマス&新年のごあいさつ号となっております。

11月は PAL6名義になります。6月、8月、12月号は minnesang
名義ですが、予算的な問題から多分6月と8月号は今回のよう
なペーパー形式で、12月号に6月~8月号の原稿もオフセット本
として入れる感じのつもりでいます。12月号はみなさん年賀状的
な原稿を1枚入れていただければ楽しいのではないかと(^_^*)
まあ、そんな感じでひとつよろしく願いいたします。

minnesang vol.4 (6月号 初版: 2013年6月10日) / 12月号: 2013年12月30日

edelweiss1012@hotmail.co.jp

<http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=albumblatt>

Celina Kihane Take it Easy 印刷: ぬこのしっぽ様

Hey Say!

エルニ草紙ゴシック

～春はばけもの やうやう白くなりゆく



恋とメタフィクション①



恋とメタフィクション②



某カメラ屋に
あった
ノリキラスギ
みたいけよむ



クイマドキの
イジナートの
剣



刃が
洗いが
易そうだった

手入れが楽なのは
良い事だよむ

ふきふき

2013年のゲームキッズ'(…キッズ?)

はい、どうもコンニチハ。粕澄みんとのおじさんですよ～。

今年はバズドラに始まってバズドラに終わるんですかねえ…敵になってからモンスターを狩ったり、モンスターをボールに押し込んだりするゲームが出て来ましたが。

萌えなおニちゃんはあちこちの鎮守府で提督になっていたりしてますね。

vita版はどのくらい売れるかな?

バズドラも3DSで出る様ですが、微妙にポケモンの匂いが…

自分は案の定エルミ ゴシックをやってます。PSP版はゴミだのアミだの散々でしたが、3DS版は調整した甲斐もあった様で結構楽しく遊んでいます。同じモンスターでも階層が下に行くに従って攻撃が微妙にいやらしくなって行く所とか好きです。

現在地下神殿ですが、侍にマトモな刀が無くてイノセントソードとムーンブレードで戦ってます。闘士に至ってはソニックブームとげんこつ+2です。君主の霸王の剣が反則的に強くて羨ましい限り。

そう言えば本当に腕間だけのブームでクッキークリッカーってのもありましたねえ…最後は反物質コンデンサーでクッキーを作るとか凄まじい事になってました。反物質ババアなんてのもいましたっけ…



スマホでは地味にWIZやってますが、何かオネエちゃんばかり出てくるよ…早く二人目のザトックさんが欲しいよう。ゲームその物はただタップするだけなんでゲーム性も何もあったもんじゃない。そんでダンジョンが追加される毎にボスがインフレ化してると言う。



着るモノ、それは
着るモノのオーブ…

甘美なるひととき

「おじいちゃあああーん！」

愛くるしい孫娘がダンジョンマスターに抱きつく。

ダンジョンマスターは孫娘を抱きしめて顔をほころばせる。

「ワードナ様ー！」

お昼寝をしていたダンジョンマスターを野太い声で呼ぶ配下の者たちの声で目覚める。

ワードナは起き上がると配下のグレーターデーモンの方をみて説明を求めた。

「冒険者どもが迷宮でイチャコラしているので、しばいてきてもいいですか？」

「もう連日目障りで目障りで……」

隣のマイルフィックもため息をついた。

「………リア充はすべからくティルトウエイト(核攻撃の意)で爆発させなければならぬ！」

ワードナは甘美なる夢からさめて現実に戻り、配下の者にそう指示を出した。

「はい。リア充どもを恐怖のどん底に突き落として参ります！」

そうしてグレーターデーモンとマイルフィックは勇み足で冒険者退治に向かっていった。

「ワードナ様」

次はヴァンパイアロードがワードナに話しかける。

「なんちゃ？」

ワードナはくるりと後ろを振り向き、背後で畏まっているヴァンパイアロードの方を見た。

「ミフネが新茶を献上に参りましたので、ティータイムにしませんか？」

「新茶とな？」

そして茶室に入ると、メイド服姿のサツキュバスがお茶を淹れるのをゆるした。

よってワードナは緑茶の匂いを嗅いだ。

ヴァンパイアロードとミフネはそこで着席し、茶会をはじめた。

迷宮の片隅で今日もまた冒険者の悲鳴が聞こえた。

Lili von Edelland

吟遊詩人のアルベールの一人娘リリイは幸運な女性だったという。

カナン人の大地母神の名前をつけられたからであろうか？

子供時代は百合の乙女と呼ばれ、周囲から愛され、ちよつとしたアイドルだったという。

とは言うものの、彼女が成長し、大人になり、自分に名付けられたリリイという意味を調べていたら、サツキュバスが語源であったことに気付き、夢魔の仕業の子という隠された言葉遊びも含まれていた。

彼女もバードとして父親のアルベルの跡を継いで、酒場で演奏会の仕事を受けたり、冒険を試みたり、ひとかどの冒険者となった。

「私の本当のパパって誰なんだろう。知らなくても別に困らないけれど、何だか気にはなるのよね」

演奏を終えたリリイは酒場のマスターにそうこぼした。

店主はリリイにワインのカクテルを渡してから話しかけることにした。

「リリイの父親は実の父親じゃないのか。それは……でも、育ててくれた父親が肉親以上だと思えるなら、それは幸せなことだな」

マスターは父親のフォローも忘れず付け加えた。リリイは幸せそうに頷くと笑顔を見せた。

「本当の父親が誰か分からない私生児の私を育ててくれたパパには本当に感謝の気持ちしかないわ」

マスターはパイプの煙を燻らせながら微笑んだ。

「酒場をしていると、そういう話はよく聞く。何も珍しい話じゃない。そういう子供はいくらでもいるし、リリイの父親が巡り合わせなら、それを誇りに思えばいいのさ。父親の跡を継いでこうして楽器を弾いているんだろう？」

リリイは幸せそうに何度も頷くとひとくちカクテルを口にしました。

「また後で一曲頼む。そのカクテルは奢りだ」

「ありがとうマスター」

酒場の夜はこれからだ。リリイはカクテルを楽しむと、バラードを奏でた。

こっちは若干メアリー臭いけど、これでも少しは気をつけて書いたんだ。迷宮でサツキュバスとかインキュバスに向かって「貴方が私の本当のお父さん？会いたかった！」とかいう謎展開の予定です。

てかりりだからリリスが名前の由来です。風を意味します。シヨックウェーブするぜ！

ベラドンナ・リリー　　幸福を呼んだ花

夏になったので、吟遊詩人のアルベルは今年もベラドンナリリーの球根を植えることにした。

ベラドンナ・リリーは彼の最愛の娘リリーが産まれた頃に咲く可憐な花だ。

リリーは乙女座生まれなので、姫小百合だの百合の乙女だのと周囲から呼ばれ愛され、すくすくと育った。アルベルの自慢の娘だが、このベラドンナリリーの花は娘の誕生を祝ってくれた特別に思い出のある花だ。

ちなみにこの花こそ本来のアマリリスと呼ばれるべき植物で、アマリリスそのものである。

ベラ・ドンナ……美しい女性という意味だが、リリーはまるでこの花に祝福されたかのように美しい女性に育った。

この父娘に幸運を呼んだ花として、アルベルは縁起を担いで毎年ベラドンナリリーの栽培を楽しんでいた。

テラコッタの鉢植えに五つ、球根を植えた。夏に植えれば開花は九月だ。

最愛の娘の誕生を祝ってくれた特別な花をこうして彼が毎年愛するのは、また一年無事に生きれたという感謝のしるし。

生命のあかし。

不幸な生い立ちの娘がこの世に生きたあかし。

娘を遣わしてくれた神への感謝の気持ちであらわす特別な花だ。

アルベルは今年もベラドンナリリーを植えて、この花が咲く日を楽しみにする。

健やかな娘の成長を見守りながら。

つてなわけ、本当はもうちよつと寝かせたかったんだけど、新作に取りかかっています。今回の新作は……以前頓挫した天津編なんです、大丈夫かいなこれ。以下あらずじ。

ガンスリンガーの櫻庭純(別名ヘンリ)に待望の娘が出来ました。

芹華(Celica)と名付けられました。

セリカはスーパーノービスになりました。

そしてレベルがカンストしました。

限界突破のお題はポリン1000匹討伐です。

天津で廻廊廻りをしていたら、旗本の相模芹沢村の芹沢君と出会いました。

仲良くなっちゃったよ。以下キヤッキヤウフフが続くので割愛。

そして芹沢芹華さんとなりました。

ハネムーン先でもサーフィンをしようと思います。

芹沢君は相模の国でサーフィンが大好きだったので。天津の神社の水面でサーフボードを触手系モブに殴り付けて巫女さ

んに怒られていただけのことはあります。

さあビッグウェーブに………ここまで考えたんだけど收拾がつかん話だなこれ。

Henry of Valburgh

パールバラ伯爵ヘンリはすったもんだの末、亡き異母兄より爵位を継承した。

彼には櫻庭芹華という娘がいた。櫻庭姓は母方の家名だ。

彼は侍であったが、敬愛する亡き異母兄アーサーの為に良き弟であろうと、常に配慮した。

生前の兄がヘンリの為に心を砕いたように、また彼がよく治めたパールバラ領の後継として相応しくあろうとした。

そんな彼の愛娘がセリカだ。

これはそんな娘と父親の物語。

「櫻庭さん！」

姫カットの金髪の少女をクラスメイトが呼ぶ。

「何？」

セリカはノートを抱えて教室を出ようとしていたのだが、委員長の海戸が彼女を呼び止めた。

「海戸君？」

海戸はしばらく間をおいてから……おそらくは一呼吸をおいて、意を決したように話した。

「俺さ、引越すんだ」

引越すという内容は転校するのかもしれない。

セリカは気になる内容をたずねた。

「そ……それは転校するって意味？」

海戸は頷いたので、セリカは残念そうに海戸を見た。

性格にやや難ありの委員長だが、新学期から一緒に遊んだりしていて惜しいと思ったからだ。

「家の都合だし、仕方ないなって思うけど、たまには帰ってくるからまた遊ぼう」

海戸なりにセリカが求めていた回答を察してそう繋げる。

「うん。元気でね」

しばらく考えた後で、セリカはかばんの中から桜の花の形をした花飾りの入った箱を取り出して、海戸に渡した。

「これ……妹さんがほしがっていたからあげるね。」

そうして箱を開けてヘアピンを見せる。

「私、まだ持つてるし、思い出にあげる」

海戸が手渡された箱を受け取る。

「有難う。大事にするよ」

夏も近い季節に彼は去った。

「どうしたんだ？」

ヘンリは夕食になかなか手をつけていないセリカに訊ねた。

「風邪でも引いたか？食欲がない？」

そう付け加える。

セリカは首を振ってこう答える。

「違うよ、お父さん。今日、委員長が転校したの。でね、少し仲良くなっていたところだからさみしいなって思ったの」

そうしてため息をつく。

「さすがは学校って感じの悩みだな」

「でね……私ってその子のこと好きだったのかなって考えたりしてた……」

ヘンリはぎよっとした。

こういうのは大人になった今でも苦手だ。

しかも年頃の娘の乙女心はよくわからないからだ。

実際問題、彼がセリカくらいの一五歳の頃は気になる相手、セリカの母親のことだが……をわざとけなしたり、悪態をついたり、照れ隠しから罵ったりもした。

少なくとも委員長というイメージから品行方正なイメージを受けるので、ヘンリのような態度はとらないだろうが、などとあれこれ頭の中で考えるが、こういうときに、娘になんていつてやるのが望ましいのか答えを探していた。

「父さん、母さんと離れ離れで暮らしていたことも多いけど、母さんのことはあまり参考にならないだろうな……」

ヘンリはうーんと眉間にしわをよせて更に考え込む。

「お母さんは今どこにいるの？」

セリカは子供ながらに父親が困っていると察して会話を変えた。

「母さんは、今はまだ生まれ故郷で仕事が忙しいと思う」

「そうなんだ。じゃあ私と一緒にだね。離れ離れだもん」

ヘンリにしては思ってもみない返答だった。彼は一瞬きよとんとしたが、急に娘が箸と茶碗を取ったので安どの表情をたええると、彼も娘に倣った。

「いただきます！」

お互い気持ち切り替わったのか、和やかな食卓を共に囲む。

お互いの想い人の幸せを願って。

小晰のあとに……

ヘンリ父娘の話のひとつ書いてみました。

思春期ならではの微妙な気持ちって書いているとなんだか懐かしいですね。昔を思い出すというか、年取ったなあっていうか、親になる年齢だとか。

* bridal *

「六月の花嫁か。わしも結婚とやらをしてみたいのう」

代官がカモフラージュされた街行く新郎新婦を横目に大黒屋に話しかける。

大黒屋はふむりと考えを燻らせ、こう返す。

「何やらマエストロという異国のシンガーソングライターがフィガロの結婚とやらを演奏するとか何とか。お代官様も結婚気分を味わえるかもしれないせぬ。」

「フィガロの結婚？」

「モーツアルトでございます。下ネタが大好きだともっぱらの噂の異国の音楽家でございます」
助平の目が輝く。

「まことか！十八禁だったらよいのう。例の脳波モデムでダイブしにいこう！大黒屋、早く！」

いそいそと脳波モデムを取り出す助平に大黒屋がマエストロムジーク・ツヴァイのソフトをセットする。

「てんてけてんてんてんてんてんてんてん」

ダイブした先に妙な和楽器の音色がする。

「舞妓さんかのう？」

そうして胸躍らせる助平は黄金色の扉を開けると大黒屋が叫んだ。

「妖怪じゃあ！たすけてくんろー！」

中から西洋の化粧をしたー！ー！まるで妖怪のような人々が享樂にかまけていた。

「妖怪ではないぞ、大黒屋、そちも臆病よのう？」

助平が安心しろとばかりににんまりと笑ってみせる。

大黒屋は柱の陰に隠れていたが、柱の陰からひよっこり顔を出すと、一応人ではあるらしいことを確認した。

「ああ、びつくりしました。特殊メイクでございましたか」

「フィガロフィガロフィガロ」

そうしてフィガロの結婚の有名な曲目が始まったので座席に座って鑑賞することにした。

そして歌が終わると大黒屋は起立してブラボーと言って拍手した。

「まるでコントのような歌じゃったのう」

助平も座席から立ち上がる。

「いやあ愉快痛快怪物王国の歌劇は面白かったわい！」
そうしていつもの部屋に戻って寝そべる大黒屋に助平が一言。

「わしの結婚マダー？」

「ああ、そのばそこのラグナロクとかいうゲームで結婚できますよ」とか適当に言いながら鼻をほじくりながら煎餅をぼりぼり。

全然忍んでない忍者がようやく一言話した。

「猫の島でクナイ狩りをしてパワーレベリングで結婚できるレベルまで上げて……」

「その忍者と結婚したらいいですよ！」
大黒屋がさりりという。

「うそおー！オチはフオモなおーどんだけー！」

助平が叫んだ。何はともあれ平和である。

* June Bride *

櫻庭芹華は櫻庭純の娘として産まれた。

桜花冠に姫カットの金髪は母親譲りだ。

天津の空にくちなしと紫陽花の花が咲くころ、彼女は芹沢という名前の忍者と結婚した。

芹沢相模は幼少のころから天津の神社でサーフィンをするのが趣味だったが、

結婚してからというもののビッグウェーブのあるココモビーチで波乗りをする。

そして浜辺で潮干狩りをしてコモドで海の幸を堪能する。

そんな日々だった。

コモドの栈橋でスーパードービスの男と一緒に釣りをする。

セリカは限界突破のお題がポリンポリンだったので、プロンテラに戻った。

離れ離れでも、いつしかの名前入りのクリスマスリングを見ると幸せな気分になる。

結婚して、子供を産んで、いつしか母親になる。

そうしてリヒタルゼンに住む父親のもとに報告に行くのだ。孫が出来ましたと！純は嬉しそうに喜んでくれるだろう。そう
いう父親だった。家族想いのガンスリンガー。

小嘶

今回はジューンブライド号ということで、ジューンブライダルっぽい内容の小嘶を考えました。

一本目は悪代官とマエストロムジーク・ツヴァイから、

二本目はラグナロクの櫻庭ヘンリ編からです。

ラグナロクの方はこの話をギーゼルヘルで考えて、今年で五年経つらしいです。

本当に月日が経つのは早いというか、何と申しますか。

二十年前の今頃は原作漫画描いて、受験して、って時期だったので、

五年おきにも自分の過去を振り返ると結構面白いものです。

まさか二十年以上同じキャラの作品を描いてるとは思う由もなかったなあ。

今年、二十年後に遂にヘンリに娘が出来ました。

目次

ウィザードリイ

甘美なるひととき

Lili von Edelland

ペラドナ・リリー　幸福を呼んだ花

ラグナロクオンライン

櫻庭さんの走馬灯　あらすじ

Henry of Valburgh

悪代官・マエストロムジーク・ツヴァイ

bridal

ラグナロクオンライン

* June bride *

オリジナル

Jardin Hardin

Jardin Hardin
Henry of Valburgh に捧ぐ

ハーディンはオアシス都市セテイで生まれた。セトの名前を冠した砂漠の街で産まれ、赤子時代をこの街で育った。

庭には砂漠の薔薇が咲き、この子を祝福した。

ハーディンがよちよち歩きをする頃、北エーデルラントの王妃でもあった母親は、生家のあるセテイにて療養中であったが、風邪を拗らせて急逝した為、父親ジークフリート八世の元へ引き取られ海を渡り王都ジーゲンへと迎えられた。この間の話はまた別の話になるので、ここで話すのはやめておこう。

ここでは、彼がセテイに帰還したあとの話について触れようと思う。

成人し一人前の王のナイトとなり、武勲を上げたハーディンであったが、彼が最後の任務を完了し、長い戦乱の幕が閉じた時、彼は満身創痍であった。

その為、同行した戦乙女ロスヴァイセはハーディンを彼を生地セテイへと送り届けた。

彼の母親の生家にて手厚い看護を受け、彼がこの世に命を留められた時、庭に砂漠の薔薇やアリッサム、マムなどが咲いていた頃、彼の祖母は戦乙女にこう申し出た。

「私はこの子と共に過ごしたいのです」と。

ロスヴァイセに断るすべがあったであろうか。彼女は微笑むとその願いを聞き入れた。

戦いで役目を終えたハーディンの消息が戦後分からなくなったのはこの為である。

夜空には星ぼしが煌めき寒暖の差の激しいこの地方の華は澄んだ夜空にあった。ダマスクローズの香りを乗せて。

ディートリヒ・フォン・ホーエンツェザー大統領は任期満了に伴い後継者にその座を託した。

大統領選挙により誕生した正統なる後継者だ。大統領官邸ツェザールブルク宮で彼はあとのことをすべて後継者に託した。今年も首都ローゼンにエーデルワイスと薔薇と鈴蘭が咲く。

マクシミリアン・フォン・ジーガツェザー大統領は、ディート王子からその座を継ぐと、臣下の……とりわけ彼が彼自身の右腕として若い頃から傍に置いていた従妹のセドリック王子に祝福してもらった。

エーデルワイスの乙女……マクシミリアンはセドリックの事をそう呼んでいたのだが、それは遠い昔の思い出だ。男装のセドリック王子の若い頃のコードネームがエーデルワイスの乙女であった。

それから月日は流れ、お互い成人し、時の流れは尖っていたマクシミリアンの氷の心を割って溶かした。雪解けを告げ鈴蘭と薔薇とエーデルワイスが咲く。彼の心の中にも。

「どこに出しても恥ずかしくない」
セドリックはそう言いはじめた。

「崩御されたわたしたちのお祖父様……ヴィルヘルム皇帝陛下もさぞお慶びのことでしょう。マクシミリアン様は大統領の器に相応しく、この国を継承されたのです」

セドリックはマクシミリアンの手をそとと取ると手の甲にキスをした。

「マクシミリアン様に無限の祝福を」
そしてマクシミリアンの日々は忙しく、あつという間にクリスマス休暇に入った。

「少しだけ休めそうだな」
アルベルとセドリックとリリイがブッシュ・ド・ノエルを作ってマクシミリアンに見せ、紅茶を淹れてクリスマスの準備をするのを遠目に眺めるように大広間に足を運ぶ。三人は笑顔でマクシミリアンを迎え、労い、ハグをした。

セドリックを巡る遺恨など遠い過去の話だ。
これがマクシミリアンに用意された未来。未来は祝福されて……。皆に祝福された。

Presidential edelweiss
「エーデルワイスの乙女」

クリスマスのための物語

エトワール・ダルジアン

エトワール・ダルジアン勲章をセドリクがマクシミリアンにつける。

銀の星の名を関したエーデルワイスの勲章だ。

マクシミリアンもセドリクにエトワール・ダルジアン勲章をつける。

年末年始の華やいだ季節に向けて一息つけると、おもむろにパーティーに出席した。

ツェザーブルク宮のステンドグラスに星状六花が付く。

外は銀世界でライトアップされた宮殿に雪が乱反射する。

ちよっぴり幻想的な風景だ。

洗練された建築様式のロココ調にも似たクラシカルな宮殿にひとときわ映える白銀の華。

まるでエーデルワイスそのもののような六花に目を奪われて……。

永久に咲けよと心のうちにマクシミリアンは思った。

エーデルヴァイスの乙女

セドリクが十八歳の頃、彼女のコードネームはエーデルワイスの乙女であった。

何となく高嶺の花のセドリクを揶揄したのだから、誰とも結ばれることなくの一節は彼女にも当てはまる。

少なくとも自ら進んでというのには彼女にはなかった。

マクシミリアンはふと昔のセドリクを夢で見た。

マクシミリアンの為にあの綺麗な乙女が穢されたことも思い出した。

つい昨晚のこのようだ。

あれから長い年月をかけて、彼も周囲も丸くなった。

かかった年の数だけ幸せがある。

マクシミリアンは羽根つき帽子にエーデルワイスをあしらったものをかぶり、思い出に浸った。

美しい乙女の祈りを、乙女の無償の愛を感じて。

乙女薄雪草 姫薄雪草

名前を剥奪された女神像が首都ローゼンにある。ローゼンの女神だ。ツェザーブルク宮地下神殿の文献によるとソニアとい

う名前であるらしい。つまりソフィアであり、知恵と叡智の女神だ。

ツインテールのブロンドにアメジストの瞳、美しい知恵の女神は、パンドラの箱と揶揄されるツェザーブルク宮地下神殿を守護する存在だ。遠き昔のフィロソフィアの物語を誰か覚えていますか？ソニアという名前の乙女が居たことを。まるで乙女薄雪草のような可憐な姫エーデルワイスが守護した世界の話を。

ステラ・アルピナ

惑星ステラ・アルピナ……夜空にひときわ輝く一番星。惑星エーデルワイスとともに歩む恒星。マクシミリアンはルフトホーフェン・ゼクトから恒星を眺める。エーデルラントの宇宙開発は順調で、傍らには臣下のセドリックが畏まっていた。宇宙開発の視察で航空都市ルフトホーフェンに赴き、宇宙に出る。祖先の地球人は何を夢見て宇宙に旅立ったのであろうか？

エーデルワイス・パピヨン

セドリックが窓辺のプランターでエーデルワイス・パピヨンを育てている。矮性の姫エーデルワイスだ。

株が広がるが、花茎は短くまたたくさん花をつける。まさに蝶々のようなエーデルワイスだ。あれからどれだけの月日が流れたであろうか？あれから……あれからというが、本当に人生は波乱万丈で、玉手箱のような人生だったから。年が開けて春になると鈴蘭とミニ薔薇とエーデルワイス・パピヨンの寄せ植えたプランターは花満開になるだろう。人生とはまさにこのプランターのようなもの。季節ごとに趣を変え、花開き、繰り返し。平和な世の中の妖精の物語。さなぎから蝶になる。人生も魂も復活もそのようなもの。マクシミリアンの心の傷はもう癒えていた。誰のお陰であろうか。傍らには……。

Ein irdischer Glanz,ein lieblich Licht

光の化身、まるで太陽のような存在のアルベルは、多くの人の心を照らした。

お日様のような優しいアルベル。

暗がりがあれば道を照らしてくれて、道しるべとなり、にこやかに微笑む。

今日もアルベルは楽器を奏でて人々の心を癒す。

それは宿命か、彼の仕事か。

EIN GLANZ

聖劍アイングランツ、聖王ハーンのレイピア。

ハーンの記憶をうちに秘めたアルベルは、ツェザールブルク宮地下神殿の祭壇にこの剣を置いた。

光の洪水は彼を飲み込み、彼を彼方へと飛ばした。

聖劍アイングランツ、不思議な古代人のレイピア。

Der Ring des Nibelungen. Rosswisse von Valhall

夢世界

アルベルは戦乙女ロスヴァイセに召喚されて夢世界を漂っていた。

白鳥の羽根を羽ばたかせロスヴァイセが現れて彼をヴァルハラへと運んだ。

新たな目覚めを求められて。

「今一度、夢世界の住人になるよ」

アルベルは微笑んでそう答える。

Serenia & Cherise

櫻庭家の人々

一方極東の桜海嶺では櫻庭家の果樹園で桜桃の品種改良をしていた。

ヘンリは祖母の墓参りのついでに帰省して、さくらんぼの具合を見た。

セレニアとシェリーズと名付けられた桜桃のカクテルを楽しみながら。

Henry of Valburgh

櫻庭芹華と星状六花

ヘンリにはセリカという娘がいた。

母親の生き写しのような愛らしい娘。

桜と薔薇で出来たティアラをかぶり、セリカはドレスアップする。

父の寂しさを埋めようと、彼が愛した妻になるべき母親の為に。

星状六花のようなエーデルワイスのネットクレスを身にまとい、母親の温もりを感じる。

これはとびきり素敵な物語。

悪代官くロマンスは突然に

「いいではないか、いいではないか！」
助平は町娘の帯を回す。

「お助け下さい、あゝれくまわるく！」
パシヤ！シヤッター音が聞こえた。

「なんじゃ？パパラッチかろう？」

ふすまを開ける助平。すると全然忍んでない忍者が走り去って行った。

「？はて？？」

ふすまを開けたまま庭を見てキョトンとする助平。

数日後、大黒屋が助平に一枚の瓦版を手渡した。

「お代官様、熱愛疑惑です！」

大黒屋はニヤニヤしている。助平は瓦版を読む。見出しはこうだ。

「ロマンスは突然に！」

見出しにはロマンスの文言と帯回しをしている最中の写真が撮られていた。

あえて言おう、盗撮であると！

「スキヤンダルでございます」

そしてふすまを開ける大黒屋、それとともにシヤッターの雨嵐！

町娘がインタビュ―されていた。熱愛疑惑についてだ。

町娘は頬を赤らめている。

「こいつワシのコレだから！」

助平は小指を立てて助太刀した。

鳴りやまぬシヤッター音が心地よい。

てかワシ、これちよつとした勇者なんじゃないの？

「クリスマスはコレと一緒に過ごして姫はじめするから！」

そこで背後のテレビからザビエルの説教が聞こえた！お約束である。

奥付

二〇一三年十二月三十日

初版発行

minnesang vol. 4

<http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=alburnblatt>
<http://kihane.com/>

きはねせりな

Take it Easy

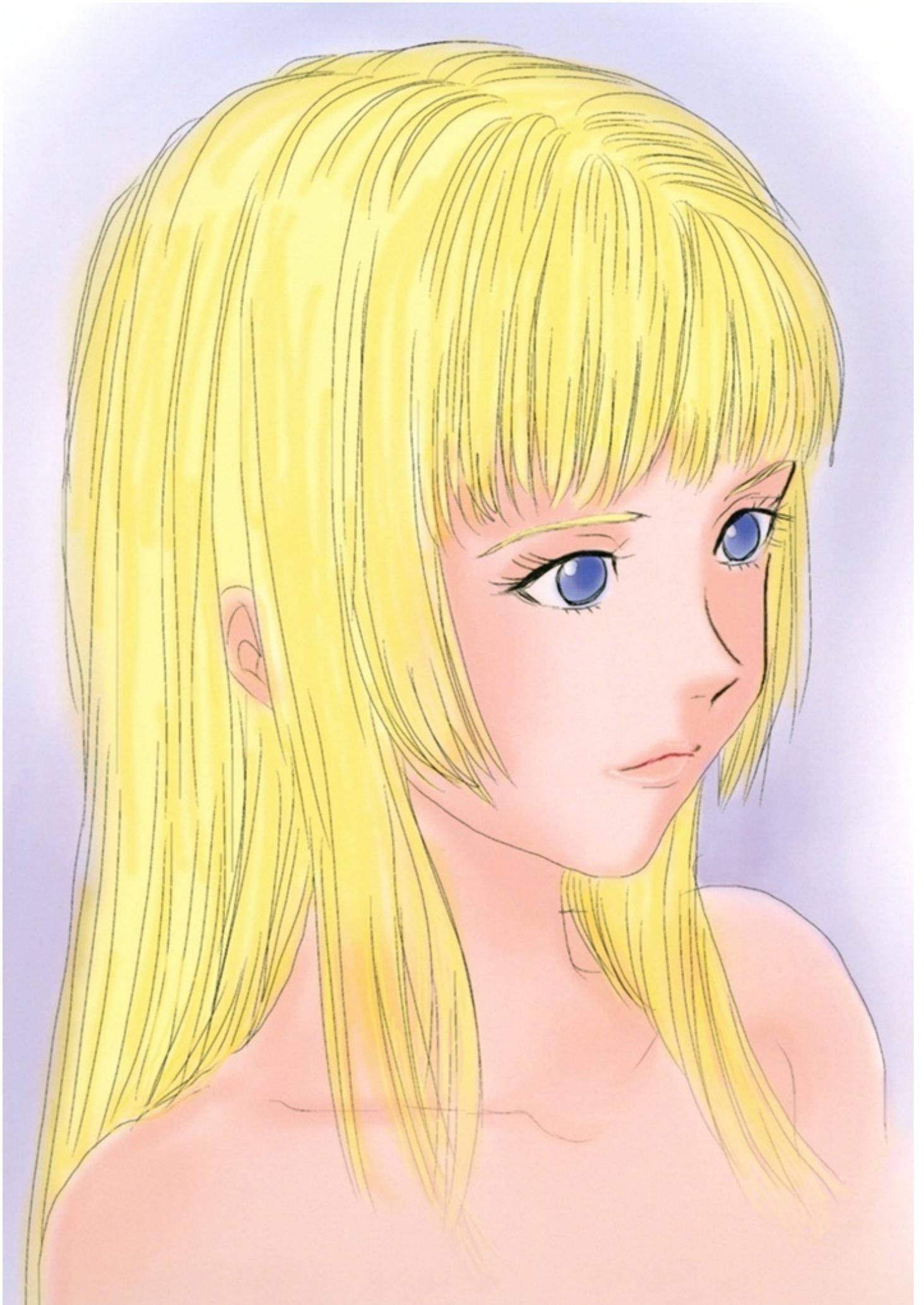
印刷：ねこのしっぽ様











アンディ山本さん

あまり知られていないと思いますが、「悪代官」のバチンコがあります。我輩はギャンブルが大嫌いな性分で、なおかつバチンコはこの世から消えたほうが良いというスタンスですが、ある日、豊丸産業から是非とも！…という話が来た時、もうこのゲームもお終いだな…豊丸産業の開発チームの皆さん、熱烈なファンだし、うん、全部あげる！…てな感じで契約をしました。尤も、吉祥寺からはビター文、ボーナスはありませんでしたが。



CR悪代官(2011年 豊丸産業株式会社)



女装メイクした悪代官が登場するシーンがありますw



実写メインだったので、撮影に関するスキル、衣装、メイク、撮影スタジオの手配から、進行管理、演出、絵コンテ、俳優手配、シナリオ、弁当や飲み物の手配など、持てる経験とスキルを全部提供しました。これが我輩にとって吉祥寺における最後の仕事となりました。バチンコということ抜きにすれば、思い出深い経験でした。吉祥寺から裏切られて追い出された後、この仕事のおかげからなのか、いくつかのバチンコ会社からお誘いを受けましたが、全てお断りました。その業界の裏を知っていれば、絶対行きたいとは思いません。

アンディ山本さん

「悪代官」シリーズのムービー

撮影は九月末に行われておりました。理由はいくつもあります。メイクがしにくい、俳優らの体調が崩れやすい、控え時に必要な暖房設備の確保が難しい、年末にかけてのスケジュールリングが困難……尤も、残暑厳しい季節ゆえ、これも多くの問題もありました。最も困難だったことは、小道具における食事関係でした。



初代「悪代官」で最初に写し出される悪代官の食事……惨めな内容だとお気づきでしょうか。実はあり、当日、コンビニで買った弁当を移し替えたものです。初めての撮影で、食事関係の小道具についてスタッフ一同全く念頭になく、慌てて調達したのですが、いやはや酷いもので……そもそも、三之膳まで用意するのが当たり前なのに、どこの長屋風景なのかと、皆で頭を抱えました。しかも、初日で早速腐りはじめ、アツプに撮った後、直ぐに捨てました。

いくつかの反省をもとに、第二作「悪代官」妄想伝」では、ある程度スーパーなどで見栄えのする食材を購入しておいたが、シナリオの中で、忍者柴山蛾王さんが、焼き魚をモシヤモシヤ食べるシーンがあるというところ、にある厨房で焼くことに……。でも、映像を観ればお分かりのように、あの魚は結構大きかった……スタジオの中のカスレンジは小型で、まんべんなく焼くことができませんでした

：生焼けで、半分腐りつつある魚って……
：俳優が食中毒になったら、事務所にとどのくらい賠償すればよいんだらうか……

：そんな心配をよそに、柴崎さんがモシヤモシヤモシヤ……あのシーンの撮影、プロデューサーとして実は一番怖かったです。



途中で企画内容のおかしなゲームとかありましたが、「悪代官三」では逆に、食事関係の小道具の見栄えが良くなったとお気づきでしょうか？



実はあれら全て、蠟細工のサンプル品です。「見せる」前提で作られているから、カメラ写りに優れ、腐らず、最初から飾られるようになっていて、並べるのに苦勞はありません。しかし、新品の食品サンプルは高額です。たとえば刺身の盛り合わせだと、四〜五万円します。じゃあ、どこで買ったのかと言えは……インターネットのオークションで全部揃えました。出所不明の食品サンプルを検索すれば、色々と出てきます。よほどのことがない限り、千円くらいで落とせました。ただ一方で、時代考証の観点も必要でした。たとえば江戸時代、鮓は広く好まれてた食材でしたが、トロはゴミとして捨てられてました。そのため、トロづくしのサンプル食品がありました。落とせませんでした。

あれ？「悪代官」に、時代考証なんかあったっけ？
ああ……プリンアラモードのサンプル、落とせばよかったw

お餅さん

お代官様、ご準備を。



続きません。





Minnesang vol.4



謹賀新年





Hey Say!

エルニ草紙ゴシック

～春はばけもの やうやう白くなりゆく



恋とメタフィクション①



恋とメタフィクション②



某カメラ屋に
あるは
イマドキのカメラ



イマドキの
クイジナートの剣



ひい
えい
バリバリバリ



刃が
洗い易そうだった
本人が喜ぶのは
嬉しい事だ

ふきふき

2013年のゲームキッズ(…キッズ?)

はい、どうもコンニチハ。粕澄みんとのおじさんですよ～。

今年はバズドラに始まってバズドラに終わるんですかねえ… 暇になってからモンスターを狩ったり、モンスターをボールに押し込んだりするゲームが出て来ましたが。

萌えなおニちゃんはあちこちの鎮守府で提督になっていたりしてますね。
vita版はどのくらい売れるかな?
バズドラも3DSで出る様ですが、微妙にポケモンの白いが…

自分は案の定エルミ ゴシックをやってます。PSP版はゴミだのゴミだの散々でしたが、3DS版は調整した甲斐もあった様で結構楽しく遊んでいます。
同じモンスターでも階層が下に行くに従って攻撃が微妙にいやらしくなって行く所とか好きです。

現在地下神殿ですが、侍にマトモな刀が無くてイノセントソードとムーンブレードで戦ってます。闘士に至ってはソニックブームとげんこつ+2です。君主の霸王の剣が反則的に強くて羨ましい限り。

そう言えば本当に魔腕だけのブームでクッキークリッカーってのもありましたねえ… 最後は反物質コンデンサーでクッキーを作るとか凄まじい事になってました。反物質ババアなんてのもいましたっけ…



スマホでは地味にWIZやってますが、何かオネェちゃんばかり出てくるよ… 早く二人目のザトックさんが欲しいよう。ゲームその物はただタップするだけなんでゲーム性も何もあったもんじゃない。そんでダンジョンが追加される毎にボスがインフレ化してると言う。



知るも所、それは
愛蔵のオーブ…





WIZARDRY 6-7
Cedric(Lor),Ans(Lor),
Shannen(Pri),Albert(Bar),
Rein(Mon)&Diet(Bis)
copyright Serina-kihane2001



甘美なるひととき

「おじいちゃんああーん！」

愛くるしい孫娘がダンジョンマスターに抱きつく。

ダンジョンマスターは孫娘を抱きしめて顔をほころばせる。

「ワードナ様ー！」

お昼寝をしていたダンジョンマスターを野太い声で呼ぶ配下の者たちの声で目覚める。

ワードナは起き上がると配下のグレートデーモンの方をみて説明を求めた。

「冒険者どもが迷宮でイチャコラしているので、しばいてきてもいいですか？」

「もう連日目障りで目障りで……」

隣のマイルフィックもため息をついた。

「……………リア充はすべからくティルトウェイト(核攻撃の意)で爆発させなければならぬ！」

ワードナは甘美なる夢からさめて現実に戻り、配下の者にそう指示を出した。

「はい。リア充どもを恐怖のどん底に突き落として参ります！」

そうしてグレートデーモンとマイルフィックは勇み足で冒険者退治に向かっていった。

「ワードナ様」

次はヴァンパイアロードがワードナに話しかける。

「なんちゃ？」

ワードナはくると後ろを振り向き、背後で畏まっているヴァンパイアロードの方を見た。

「ミフネが新茶を献上に参りましたので、ティータイムにしませんか？」

「新茶とな？」

そして茶室に入ると、メイド服姿のサッキュバスがお茶を淹れるのをゆるした。

よってワードナは緑茶の匂いを嗅いだ。

ヴァンパイアロードとミフネはそこで着席し、茶会をはじめた。

迷宮の片隅で今日もまた冒険者の悲鳴が聞こえた。

Lili von Edelland

吟遊詩人のアルペールの一人娘リリィは幸運な女性だったという。

カナン人の大地母神の名前をつけられたからであろうか？

子供時代は百合の乙女と呼ばれ、周囲から愛され、ちょっとしたアイドルだったという。

とは言うものの、彼女が成長し、大人になり、自分に名付けられたリリィという意味を調べていたら、サッキュバスが語源であったことに気が付き、夢魔の仕業の子という隠された言葉遊びも含まれていた。

彼女もバードとして父親のアルベルの跡を継いで、酒場で演奏会の仕事を受けたり、冒険をしたり、ひとかどの冒険者となった。

「私の本当のパパって誰なんだろう。知らなくても別に困らないけれど、何だか気にはなるのよね」

演奏を終えたリリィは酒場のマスターにそうこぼした。

店主はリリィにワインのカクテルを渡してから話しかけることにした。

「リリィの父親は実の父親じゃないのか。それは……でも、育ててくれた父親が肉親以上だと思えるなら、それは幸せなことだな」

マスターは父親のフォローも忘れず付け加えた。リリィは幸せそうに頷くと笑顔を見せた。

「本当の父親が誰か分からない私生児の私を育ててくれたパパには本当に感謝の気持ちしかないわ」

マスターはパイプの煙を燻らせながら微笑んだ。

「酒場をしていると、そういう話はよく聞く。何も珍しい話じゃない。そういう子供はいくらでもいるし、リリィの父親が巡り合わせなら、それを誇りに思えばいいのさ。父親の跡を継いでこうして楽器を弾いているんだろう？」

リリィは幸せそうに何度も頷くとひとくちカクテルを口にした。

「また後で一曲頼む。そのカクテルは奢りだ」

「ありがとうマスター」

酒場の夜はこれからだ。リリィはカクテルを楽しむと、バラードを奏でた。

こっちは若干メアリー臭いけど、これでも少しは気をつけて書いたんだ。迷宮でサッキュバスとかインキュバスに向かって「貴方が私の本当のお父さん？会いたかった！」とかいう謎展開の予定です。

てかりりだからリリスが名前の由来です。風を意味します。ショックウェーブするぜ！

ベラドンナ・リリー～幸福を呼んだ花～

夏になったので、吟遊詩人のアルベルは今年もベラドンナリリーの球根を植えることにした。

ベラドンナ・リリーは彼の最愛の娘リリィが生まれた頃に咲く可憐な花だ。

リリィは乙女座生まれなので、姫小百合だの百合の乙女だのと周囲から呼ばれ愛され、すくすくと育った。

アルベルの自慢の娘だが、このベラドンナリリーの花は娘の誕生を祝ってくれた特別に思い出のある花だ。

ちなみにこの花こそ本来のアマリリスと呼ばれるべき植物で、アマリリスそのものである。

ベラ・ドンナ……美しい女性という意味だが、リリィはまるでこの花に祝福されたかのように美しい女性に育った。

この父娘に幸運を呼んだ花として、アルベルは縁起を担いで毎年ベラドンナリリーの栽培を楽しんでいた。

テラコッタの鉢植えに五つ、球根を植えた。夏に植えれば開花は九月だ。

最愛の娘の誕生を祝ってくれた特別な花をこうして彼が毎年愛でるのは、また一年無事に生きれたという感謝のしるし。

生命のあかし。

不幸な生い立ちの娘がこの世に生きたあかし。

娘を遣わしてくれた神への感謝の気持ちをあらわす特別な花だ。

アルベルは今年もベラドンナリリーを植えて、この花が咲く日を楽しみにする。

健やかな娘の成長を見守りながら。

ってなわけで、本当はもうちょっと寝かせたかったんだけど、新作に取りかかっています。

今回の新作は……以前頓挫した天津編なんですが、大丈夫かいなこれ。

以下あらすじ。

ガンスリンガーの櫻庭純(別名ヘンリ)に待望の娘が出来ました。

芹華(Celica)と名付けられました。
セリカはスーパーノービスになりました。
そしてレベルがカンストしました。
限界突破のお題はポリン1000匹討伐です。
天津で廻廊廻りをしていたら、旗本の相模芹沢村の芹沢君と出会いました。
仲良くなっちゃったよ。以下キャッキャウフフが続くので割愛。
そして芹沢芹華さんとなりました。
ハネムーン先でもサーフィンをしようと思います。
芹沢君は相模の国でサーフィンが大好きだったのです。天津の神社の水面でサーフボードを触手系モブに殴り付けて巫女さんに怒られていただけのことはあります。
さあビッグウェーブに.....ここまで考えたんだけど收拾がつかん話だなこれ。

Henry of Valburgh

パールバラ伯爵ヘンリはすったもんだの末、亡き異母兄より爵位を継承した。
彼には櫻庭芹華という娘がいた。櫻庭姓は母方の家名だ。
彼は侍であったが、敬愛する亡き異母兄アーサーの為に良き弟であろうと、常に配慮した。
生前の兄がヘンリの為に心を砕いたように、また彼がよく治めたパールバラ領の後継として相応しくあろうとした。

そんな彼の愛娘がセリカだ。

これはそんな娘と父親の物語。

「櫻庭さーん！」

姫カットの金髪の少女をクラスメイトが呼ぶ。

「何？」

セリカはノートを抱えて教室を出ようとしていたのだが、委員長の海戸が彼女を呼び止めた。

「海戸君？」

海戸はしばらく間をおいてから.....おそらくは一呼吸をおいて、意を決したように話した。

「俺さ、引っ越すんだ」

引っ越すということは転校するのかもしれない。

セリカは気になる内容をたずねた。

「そ.....それは転校するって意味？」

海戸は頷いたので、セリカは残念そうに海戸を見た。

性格にやや難ありの委員長だが、新学期から一緒に遊んだりしていて惜しいと思ったからだ。

「家の都合だし、仕方ないなって思うけど、たまには帰ってくるからまた遊ぼう」

海戸なりにセリカが求めている回答を察してそう繋げる。

「うん。元気でね」

しばらく考えた後で、セリカはかばんの中から桜の花の形をした花飾りの入った箱を取り出して、海戸に渡した。

「これ.....妹さんがほしがっていたからあげるね。」

そうして箱を開けてヘアピンを見せる。

「私、まだ持ってるし、思い出にあげる」

海戸が手渡された箱を受け取る。

「有難う。大事にするよ」

夏も近い季節に彼は去った。

「どうしたんだ？」

ヘンリは夕食になかなか手をつけていないセリカに訊ねた。

「風邪でも引いたか？食欲がない？」

そう付け加える。

セリカは首を振ってこう答える。

「違うよ、お父さん。今日、委員長が転校したの。でね、少し仲良くなっていたところだからさみしいなって思ったの」

そうしてため息をつく。

「さすがは学校って感じの悩みだな」

「でね.....私ってその子のこと好きだったのかなって考えたりしてた.....」

ヘンリはぎょっとした。

こういうのは大人になった今でも苦手だ。

しかも年頃の娘の乙女心はよくわからないからだ。

実際問題、彼がセリカくらいの一五歳の頃は気になる相手、セリカの母親のことだが……をわざとけなしたり、悪態をついたり、照れ隠しから罵ったりもした。

少なくとも委員長というイメージから品行方正なイメージを受けるので、ヘンリのような態度はとらないだろうが、などとあれこれ頭の中で考えるが、こういうときに、娘になんていってやるのが望ましいのか答えを探していた。

「父さん、母さんと離れ離れで暮らしていたことも多いけど、母さんのことはあまり参考にならないだろうな……」

ヘンリはうーんと眉間にしわをよせて更に考え込む。

「お母さんは今どこにいるの？」

セリカは子供ながらに父親が困っていると察して会話を変えた。

「母さんは、今はまだ生まれ故郷で仕事が忙しいと思う」

「そうなんだ。じゃあ私と一緒にだね。離れ離れだもん」

ヘンリにしては思ってもみない返答だった。彼は一瞬きょとんとしたが、急に娘が箸と茶碗を取ったので安どの表情をたたえると、彼も娘に倣った。

「いただきます！」

お互い気持ちが切り替わったのか、和やかな食卓を共に囲む。
お互いの想い人の幸せを願って。

小断のあとに……

ヘンリ父娘の話をひとつ書いてみました。

思春期ならではの微妙な気持ちって書いてるとなんだか懐かしいですね。
昔を思い出すというか、年取ったなあってというか、親になる年齢だなとか。

bridal

「六月の花嫁か。わしも結婚とやらをしてみたいのう」

代官がカモフラージュされた街行く新郎新婦を横目に大黒屋に話しかける。

大黒屋はふむりと考えを燻らせ、こう返す。

「何やらマエストロという異国のシンガーソングライターがフィガロの結婚とやらを演奏するとか何とか。

お代官様も結婚気分を味わえるかもしれませぬ。」

「フィガロの結婚？」

「モーツァルトでございます。下ネタが大好きだともっぱらの噂の異国の音楽家でございます」
助平の目が輝く。

「まことか！十八禁だったらよいのう。例の脳波モデムでダイブしにいこう！大黒屋、早く！」
いそいそと脳波モデムを取り出す助平に大黒屋がマエストロムジーク・ツヴァイのソフトをセットする。

「てんてけてんてんてんてんてんてん」

ダイブした先に妙な和楽器の音色がする。

「舞妓さんかのう？」

そうして胸躍らせる助平は黄金色の扉を開けると大黒屋が叫んだ。

「妖怪じゃあ！たすけてくんろー！」

中から西洋の化粧をした――まるで妖怪のような人々が享樂にかまけていた。

「妖怪ではないぞ、大黒屋、そちも臆病よのう？」

助平が安心しろとばかりににんまりと笑ってみせる。

大黒屋は柱の陰に隠れていたが、柱の陰からひょっこり顔を出すと、一応人ではあるらしいことを確認した。

「ああ、びっくりしました。特殊メイクでございましたか」

「フィーガロフィガロフィガロー♪」

そうしてフィガロの結婚の有名な曲目が始まったので座席に座って鑑賞することにした。

そして歌が終わると大黒屋は起立してブラボーと言って拍手した。

「まるでコントのような歌じゃったのう」

助平も座席から立ち上がる。

「いやあ愉快痛快怪物王国の歌劇は面白かったわい！」

そうしていつもの部屋に戻って寝そべる大黒屋に助平が一言。

「わしの結婚マダー？」

「ああ、そこはそこんのラグナロクとかいうゲームで結婚できますよ」

とか適当に言いながら鼻をほじくりながら煎餅をぼりぼり。

全然忍んでない忍者がようやく一言話した。

「猫の島でクナイ狩りをしてパワーレベリングで結婚できるレベルまで上げて……」

「そこの忍者と結婚したらいいですよ！」

大黒屋がさりりという。

「うそー！オチはフォモなのおーどんだけー！」

助平が叫んだ。何はともあれ平和である。

* June bride *

櫻庭芹華は櫻庭純の娘として生まれた。

桜花冠に姫カットの金髪は母親譲りだ。

天津の空にくちなしと紫陽花の花が咲くころ、彼女は芹沢という名前の忍者と結婚した。

芹沢相模は幼少のころから天津の神社でサーフィンをするのが趣味だったが、

結婚してからというものビッグウェーブのあるココモビーチで波乗りをする。

そして浜辺で潮干狩りをしてコモドで海の幸を堪能する。

そんな日々だった。

コモドの棧橋でスーパーノービスの男と一緒に釣りをする。

セリカは限界突破のお題がポリンポリンだったので、プロンテラに戻った。

離れ離れでも、いつしかの名前入りのクリスマスリングを見ると幸せな気分になる。

結婚して、子供を産んで、いつしか母親になる。

そうしてリヒタルゼンに住む父親のもとに報告に行くのだ。

孫が出来ましたと！

純は嬉しそうに喜んでくれるだろう。

そういう父親だった。

家族想いのガンスリンガー。

* 小噺 *

今回はジューンブライド号ということで、ジューンブライダルっぽい内容の小噺を考えました。

一本目は悪代官とマエストロムジーク・ツヴァイから、

二本目はラグナロクの櫻庭ヘンリ編からです。

ラグナロクの方はこの話をギーゼルヘルで考えて、今年で五年経つらしいです。

本当に月日が経つのは早いというか、何と申しますか。

二十年前の今頃は原作漫画描いて、受験して、って時期だったので、

五年おきにでも自分の過去を振り返ると結構面白いものです。

まさか二十年以上同じキャラの作品を描いてるとは思う由もなかったなあ。

今年、二十年後に遂にヘンリに娘が出来ました。

目次

ウィザードリィ

* 甘美なるひととき *

Lili von Edelland

ベラドンナ・リリー ~幸福を呼んだ花~

ラグナロクオンライン

櫻庭さんの走馬灯～あらすじ～

Henry of Valburgh

悪代官・マエストロムジーク・ツヴァイ

bridal

ラグナロクオンライン

June bride

オリジナル

Jardin Hardin

Jardin Hardin

Henry of Valburghに捧ぐ

ハーディンはオアシス都市セティで生まれた。

セトの名前を冠した砂漠の街で生まれ、赤子時代をこの街で育った。

庭には砂漠の薔薇が咲き、この子を祝福した。

ハーディンがよちよち歩きをする頃、北エーデルラントの王妃でもあった母親は、生家のあるセティにて療養中であったが、風邪を拗らせて急逝した為、父親ジークフリート八世の元へ引き取られ海を渡り王都ジーゲンへと迎えられた。

この間の話はまた別の話になるので、ここで話すのはやめておこう。

ここでは、彼がセティに帰還したあとの話について触れようと思う。

成人し一人前の王のナイトとなり、武勲を上げたハーディンであったが、彼が最後の任務を完了し、長い戦乱の幕が閉じた時、彼は満身創痍であった。

その為、同行した戦乙女ロスヴァイセはハーディンを彼を生地セティへと送り届けた。

彼の母親の生家にて手厚い看護を受け、彼がこの世に命を留められた時、庭に砂漠の薔薇やアリッサム、マムなどが咲いていた頃、彼の祖母は戦乙女にこう申し出た。

「私はこの子と共に過ごしたいのです」と。

ロスヴァイセに断るすべがあったであろうか。彼女は微笑むとその願いを聞き入れた。

戦いで役目を終えたハーディンの消息が戦後分からなくなったのはこの為である。

夜空には星ぼしが煌めき寒暖の差の激しいこの地方の華は澄んだ夜空にあった。

ダマスクローズの香りを乗せて。

クリスマスのための物語

Presidential edelweiss

～エーデルワイスの乙女～

クリスマスのための物語

ディートリヒ・フォン・ホーエンツェザー大統領は任期満了に伴い後継者にその座を託した。
大統領選挙により誕生した正統なる後継者だ。

大統領官邸ツェザーブルク宮で彼はあとのことをすべて後継者に託した。

今年も首都ローゼンにエーデルワイスと薔薇と鈴蘭が咲く。

マクシミリアン・フォン・ジーガツェザー大統領は、ディート王子からその座を継ぐと、臣下の……とりわけ彼が彼自身の右腕として若い頃から傍に置いていた従妹のセドリク王子に祝福してもらった。

エーデルワイスの乙女……マクシミリアンはセドリクの事をそう呼んでいたのだが、それは遠い昔の思い出だ。

男装のセドリク王子の若い頃のコードネームがエーデルワイスの乙女であった。

それから月日は流れ、お互い成人し、時の流れは尖っていたマクシミリアンの氷の心を割って溶かした。

雪解けを告げ鈴蘭と薔薇とエーデルワイスが咲く。

彼の心の中にも。

「どこに出しても恥ずかしくない」

セドリクはそう言い始める。

「崩御されたわたしたちのお祖父様……ヴィルヘルム皇帝陛下もさぞお慶びのことでしょう。
マクシミリアン様は大統領の器に相応しく、この国を継承されたのです」

セドリクはマクシミリアンの手をそっと取ると手の甲にキスをした。

「マクシミリアン様に無限の祝福を」

そしてマクシミリアンの日々は忙しく、あっという間にクリスマス休暇に入った。

「少しだけ休めそうだな」

アルベルとセドリクとリリィがブッシュ・ド・ノエルを作ってマクシミリアンに見せ、紅茶を淹れてクリスマスの準備をするのを遠目に眺めるように大広間に足を運ぶ。

三人は笑顔でマクシミリアンを迎え、労い、ハグをした。

セドリクを巡る遺恨など遠い過去の話だ。

これがマクシミリアンに用意された未来。

未来は祝福されて……。

皆に祝福された。

Presidential edelweiss

～エーデルワイスの乙女～

クリスマスのための物語

悪代官～ロマンスは突然に～

「いいではないか、いいではないか！」

助平は町娘の帯を回す。

「お助け下さい～あ～れ～まわる～！」

パシャ！シャッター音が聞こえた。

「なんじゃ？パパラッチかのう？」

ふすまを開ける助平。すると全然忍んでない忍者が走り去って行った。

「？はて？？？」

ふすまを開けたまま庭を見てキョトンとする助平。

数日後、大黒屋が助平に一枚の瓦版を手渡した。

「お代官様、熱愛疑惑です！」

大黒屋はニヤニヤしている。助平は瓦版を読む。見出しはこうだ。

「ロマンスは突然に！」

見出しにはロマンスの文言と帯回しをしている最中の写真が撮られていた。

あえて言おう、盗撮であると！

「スキャンダルでございます」

そしてふすまを開ける大黒屋、それとともにシャッターの雨嵐！

町娘がインタビューされていた。熱愛疑惑についてだ。

町娘は頬を赤らめている。

「こいつワシのコレだから！」

助平は小指を立てて助太刀した。

鳴りやまぬシャッター音が心地よい。

てかワシ、これちょっとした勇者なんじゃないの？

「クリスマスはコレと一緒に過ごして姫はじめするから！」

そこで背後のテレビからザビエルの説教が聞こえた！お約束である。

奥付

二〇一三年十二月三十日

初版発行

minnesang vol.4

<http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=albumblatt>

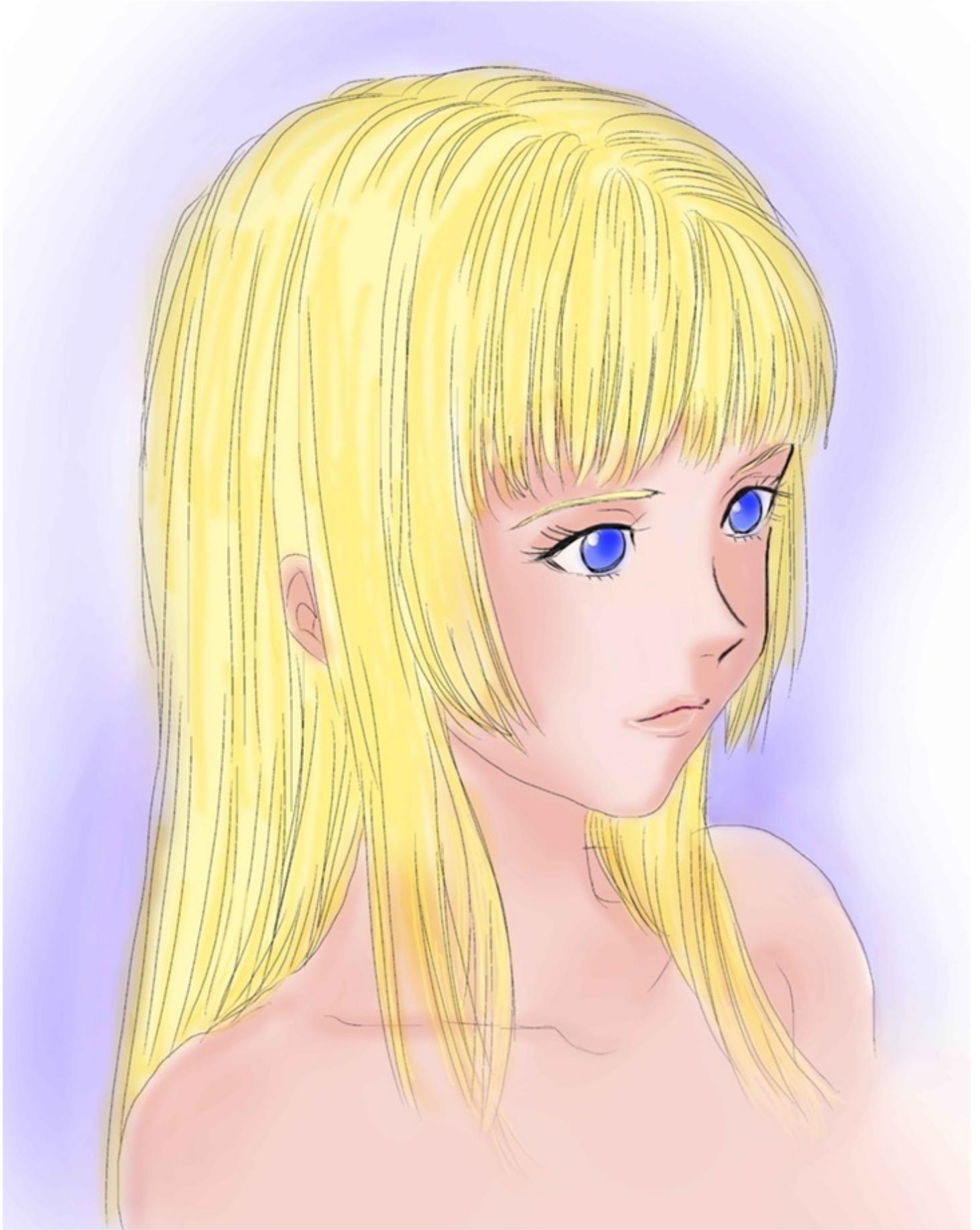
<http://kihane.com/>

きはねせりな

Take it Easy

印刷：ねこのしっぽ様



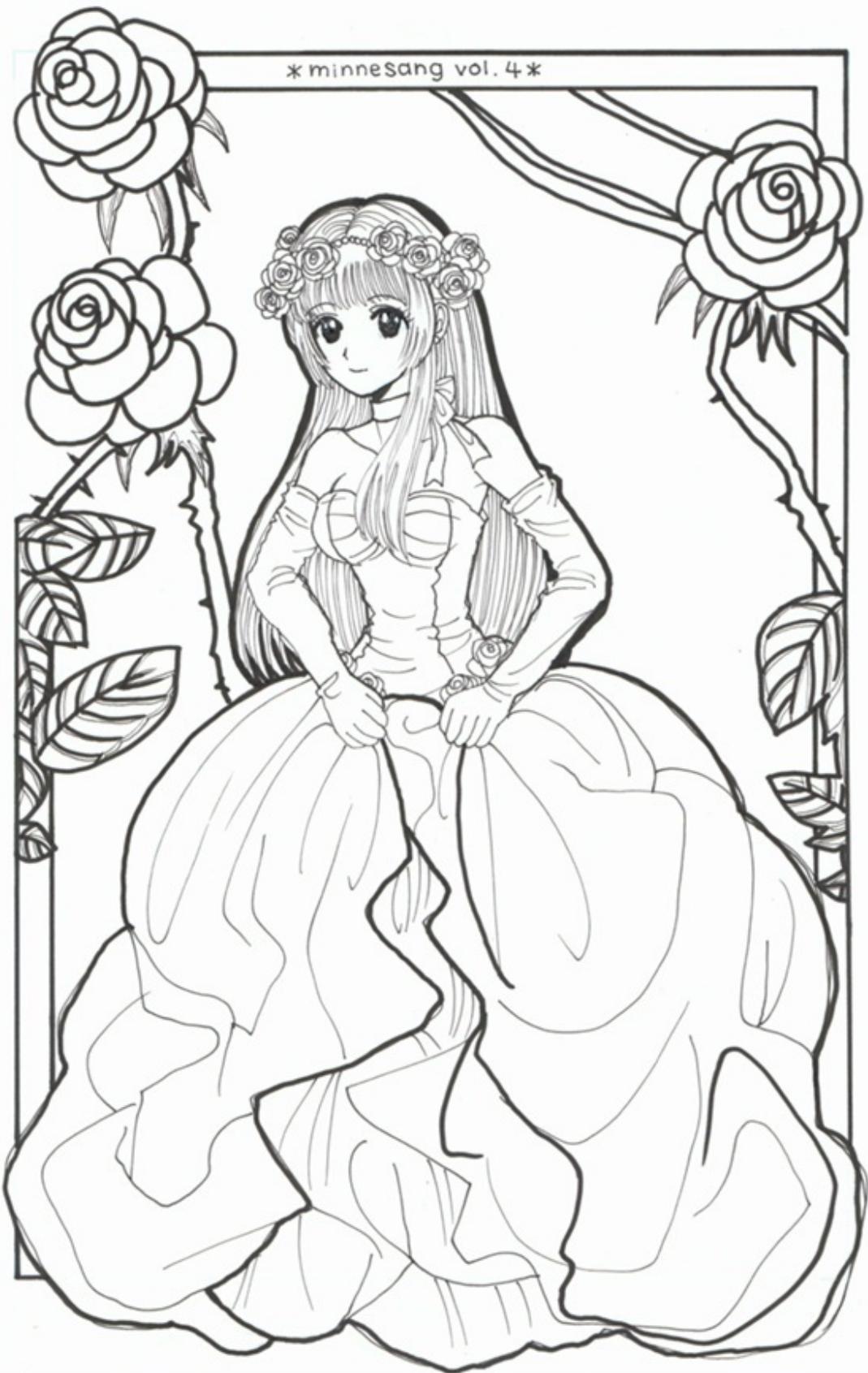








* minnesang vol. 4 *







※印刷の場合はこちらで確認ください

↑↑↑↑↑

No.



※印刷の場合はこちらで確認ください
*0278
+88 1256 H 1257x182mm

minnesang vol.4

<http://p.booklog.jp/book/78376>

著者：きはねせりな

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/leontopodium/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/78376>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/78376>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ